

平成26年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

				整理番号	7 - 2 - 6
事務事業名	四国へんろ道世界遺産推進事業			担当課係	生涯学習課
総合計画上の位置付け	大項目	5. 「日（いとなみ）が輝く」		記入担当者	
	中項目	①伝統・文化の継承・発展とスポーツの振興		内線等	
	小項目	1. 文化財・伝統の継承		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	10 教育費	項	5 社会教育費	
	目	1 社会教育総務費	事業	13 四国へんろ道世界遺産推進事業	
開始年度		年度	根拠法令・要綱等 文化財保護法		

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の保護措置
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 古道（遍路道）の測量図面等を作成し、国史跡指定に必要な意見具申の資料作成を行う。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の保護措置を実施するにあたっての、文化財保護法による史跡指定等に必要の測量図面等の作成及び札所寺院及び遍路道を構成する要素（建物、石造物等）の記録・資料作成業務。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の保護措置は、勝浦町・阿南市が先行する形で管内の遍路道（古道）が国史跡指定となっており、小松島市では恩山寺の寺域内の調査を徳島県教育委員会が実施している。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明					指標化できない成果 国史跡指定に必要な意見具申の資料作成のための測量及び発掘調査であるため。	
	単位		H25	H26	H27	H28	将来目標 （年度：平成）		
			目標	実績	達成度				
活動実績・参考となる指標	指標名		単位		H25	H26	H27	H28	指標の説明
	共済費	円	計画			30,000			
			実績			4,125			
	賃金	円	計画			663,000			
			実績			526,244			
	需用費	円	計画			126,000			
			実績			75,401			
	委託料	円	計画			3,662,000			
			実績			3,419,280			

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		25年度決算	26年度決算	27年度決算	26年度予算		
全体コスト（円）	関連事業費	A 直接事業費	0	4,025,050	0	4,481,000	
		財源内訳	国県支出金		2,012,000		
			地方債		0		
			利用者負担		0		
			一般財源		2,013,050		
		B 人件費 ①×②	0	84,730	0		
		職員平均人件費①		8,473,022			
従事した割合②/人		0.01					
A + B		0	4,109,780	0			
単位コスト	活動指標の説明				備考		
	活動指標1単位当たりコスト				平成25年4月1日現在 人口40,733人		
	市民一人あたりのコスト				平成26年4月1日現在 人口40,333人		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録へ向け、日本の暫定一覧表入りを目標とし、四国四県が課題である文化財としての保護措置に向けて活発に動いている。また、日本遺産にも認定され、全国的にも注目されている。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 先行する阿南市では地域と密着した遍路道の保護普及活動が行われており、小松島市でも同様に地域住民との積極的な対話が必要である。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	小松島に残る文化遺産である古道(遍路道)を文化財保護法による史跡指定等で保護し、後世へと伝えていく必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	観光資源的な観点のみの利益追求だけでは、なしえない事業であり、公的機関が最適である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	文化庁の補助金を利用し、経費削減に努めた。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	景観的な要素など日々改変していく可能性があり、保護措置に向けた作業が急がれる。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	古道(遍路道)の測量及び部分的な発掘調査を実施し、国史跡指定に必要な意見具申の資料作成が進んでいる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	国史跡指定に必要な意見具申の資料作成を進めるとともに、地域に根差した保護措置となるよう、地域住民との積極的な対話の場を設けていく必要がある。また、遍路道は整備が必要な箇所もあり、事業課と対応策を検討していく機会を設けていく必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

2	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80点以上	2	判定に至った理由	意見具申の資料作成等を継続し、本市において初となる国史跡指定を目指す必要があるため。
		2 現状のまま継続する	60～79点			
		3 改善・効率化し継続	50～59点			
		4 見直しの上縮小する	40～49点			
		5 終期設定し終了	30～39点			
		6 休 止	20～29点			
		7 廃 止	19点以下			

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

2	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明	「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録へ向けた日本の暫定一覧表入りを目標とした事業であり継続していく必要がある。
		2 現状のまま継続する		
		3 改善・効率化し継続		
		4 見直しの上縮小する		
		5 終期設定し終了		
		6 休 止		
		7 廃 止		